

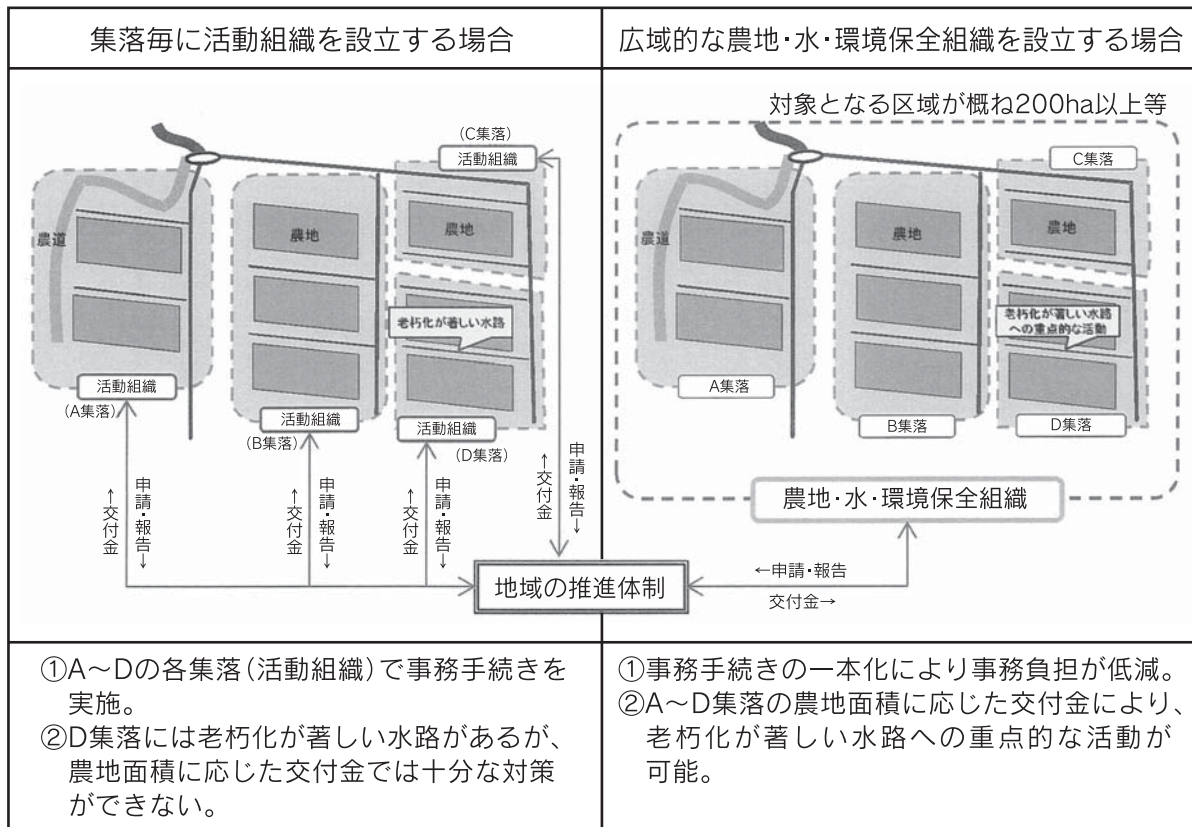
秋田県次期対策(H24～28)取組方針(案)

■対象活動組織

- 国の基本方針並びに今後想定される共同活動
参加者及び農業従事者の大幅な減少に対するため広域的な保全管理体制の構築へ誘導。
- 平成24年度からの対策においては、現行で200ha以上の組織は「農地・水・環境保全組織」を新たに設立することとします。

支援対象組織の対比イメージ図

活動組織と農地・水・環境保全組織との対比



参考 次期対策の支援単価

現在、農林水産省で全国の要望量調査を実施中であり、支援単価については**変更となる場合があります。**

〔共同活動支援交付金〕

- 継続地区 2,800円/10a
- 新規地区 3,500円/10a

〔向上活動支援交付金〕

- 施設の長寿命化 4,400円/10a(地元負担有り)
 - 高度な農地・水 500～2,000円/10a(上限有り)
 - 農地・水組織 400千円/組織(単年度)
- ※ ●は支援について、現在検討中

特集

農業水利施設内の「ゴミ」問題

シリーズ⑧

平成23年度農業水利施設「ゴミゼロ」対策の取り組み結果

■農業水利施設でのゴミ処理経費の軽減取り組み

○アンケート聞き取り調査(前年度の追跡調査)

灌漑期(5月～8月)における管理人の処理経費等

(単位:千円)

水系別	H22	H23	備考
米代川水系	8,216	7,671	
子吉川水系	3,479	3,768	
雄物川水系	39,806	38,740	
計	51,501	50,179	▲1,322

■農業者への農業ゴミ防止に対する意識の浸透と、地域活動を通じた住民へのゴミ投棄防止への取り組み

1. 会員水土里ネットの広報誌等に「ゴミ捨て防止」コーナーを設けて頂き、農家への啓発活動を実施

〔各水土里ネット発行の広報誌に掲載〕

- ・大潟土地改良区 ・鳥海町上川内堰土地改良区 ・にかほ市土地改良区
- ・秋田県南旭川水系土地改良区 ・秋田県雄物川筋土地改良区
- ・山城水系土地改良区 ・雄勝郡山田五ヶ村堰土地改良区 ・羽後町土地改良区

2. 他機関が実施する活動への積極的参加

平成23年10月22日(土)

NPO法人秋田パドラーズ主催の

雄物川河口クリーンアップへ参加

本会職員17名参加



3. 本会会報誌「秋田の土地改良」及び本会ホームページでの広報活動の継続実施

- ・会報誌「秋田の土地改良」…第468号～471号
- ・ホームページ…農業水利施設内のゴミ問題ページ

■外部(県民)への情報発信

○オリジナルのぼり旗を作成し、事務所敷地内へ設置



○チラシを作成し、各イベントで県民に配布



「中山間ふるさと・水と土フォーラム」

～農山村の魅力を再確認～

「わくわく探訪」参加の小学生が感想文発表

3月17日(土)、秋田市の秋田県庁第2庁舎で平成23年度『中山間ふるさと・水と土フォーラム』(主催:秋田県、後援:水土里ネット秋田、あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議、秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会)が開催され、約120名が参加し農業や農山村地域の魅力を再確認した。



このフォーラムは、農業・農村が有する自然や景観、伝統文化など県内各地の魅力を知ってもらい、農業・農山村を守り継ぐことの大切さ、農地や農業水利施設などの大切さを広く一般県民に知ってもらおうと開催された。

オープニングでは、県指定無形民俗文化財に指定されている、にかほ市象潟町小滝地区の「鳥海山小滝番楽」が同保存会によって披露され、優雅で力強い舞と幻想的な雰囲気に参加者も魅了されていた。

また、秋田市河辺の野外活動団体「あきた山の学校」の藤原優太郎主宰が「次世代に伝えたい～ふるさと秋田の魅力～」と題して基調講演を行った。人間の生活スタイルが自給自足から都市依存型に変化し、環境や伝統文化よりも経済効果が重視されるようになってきたと指摘。「水や緑といった自然がわれわれの心にもたらす効果は計り知れない。精神的、情緒的なものを切り捨てず、身近な自然や身の回りを見つめ直し、新しい価値観の入口を見つけるべきだ」と話した。



続いて、小学生による体験活動の感想文発表、男鹿市で「琴川のすげ笠」作りを受け継いでいる地元青年の活動発表、「八郎湖の再生」に取り組んでいるNPO法人はちろうプロジェクトの活動報告など3組が農山村地域の体験活動を発表。このうち秋田市立旭川小5年の高畑美和さんと佐藤優奈さんは、昨年7月、地球人会議主催で行われた「水土里の郷・

鳥海 わくわく探訪(土地改良施設巡り)」に参加し、沿岸部の水田を塩害などから守る「由利海岸波除石垣」や歴史的施設にもなっている「上郷温水路群」などを見学したことを報告し、「自然の力を利用した昔の人の知恵はすごい。学校では教わらない新しい発見がいくつもあった」などと感想を述べた。



特集

地域からの
情報発信

伝統芸能

雄勝支部水主里レポーター 矢野 三郎
(羽後町土地改良区事務局長)

秋田県南部に位置する羽後町には古くから伝えられてきた伝統芸能が数多く残されており、中でも代表的なものは、国指定重要無形民族文化財の「西馬音内盆踊り」と秋田県指定無形民族文化財の「仙道番楽」です。

西馬音内盆踊りは800年の歴史を持つと伝えられており、お盆の8月16日から18日までの3日間行われ、近年では有名になり県内外からたくさんの観光客でにぎわいます。盆踊りが踊られるのは、西馬音内の町の中心部の通りです。夕方、篝火を焚き、寄せ太鼓が始まるとやがて踊りが始まり、最初は子供たちが踊り、だんだんと大人たちの踊りに移行していきます。

「彦三(ひこさ)頭巾」と、「端縫い(はぬい)衣装に鳥追い笠」を纏った優雅な踊りが多くの人々を魅了し、最近では、県外・海外のイベントにも呼ばれメジャーになっているようです。また、盆踊り会館もでき西馬音内盆踊りの映像と盆踊り人形と月1回の公演と衣装等が観られます。

もうひとつの仙道番楽は、町の中心部より西南15キロ離れた中山間地の仙道新処に伝わり、400年の歴史があると伝えられております。以前は山間部に集落の名称を持つ4つの番楽団が伝えられてきたが、近年の娯楽の多様化・団員の後継者の不足により次第に衰退していったという、唯一残された一団だけとなってしまったようです。番楽が演じられるのは4月中旬の幕開きに始まり、村内の神社の祭典・慰霊祭等、さらに祝賀会等のアトラクションなどでも演じられ、雪の舞う頃に幕納めとしての演舞で年間の活動を終えます。



仙道番楽は一番より十二番まであって、一番より六番までを表六番と称し「獅子舞から鳥舞」、七番より十二番までを裏六番と称して「位頭御神楽からわらび折姫之舞」まで、その順番で演じられます。

今、中山間地の農村は過疎化・高齢化等の進行が加速化している中であって、無形文化財として今後も地域に継承するためにそれぞれ保存会を設けていることが、伝統芸能の保存継承に大きな役割をはたしていると思っております。

また、羽後町にある県立羽後高等学校にはその伝統芸能を継承するため、伝統芸能部があり、西馬音内盆踊り、仙道番楽等を練習し、何度も全国高等学校総合文化祭・県高文連日本音楽・郷土芸能合同発表会に出場し優秀な成績を収めております。今年も8月に富山県砺波市で行われる全国大会発表会に最優秀賞全国大会推賞として出場します。生まれ育った地域の伝統芸能を学び未来へ伝承活動していくことによって、農村の持つ魅力が見直されることを願ってやみません。

